

ちよふの畑 その①



甲州街道北側に広がる三ツ木さんの畑。かなりの広さに色々な野菜がすくすくと育っている。ざっと見回しても数十種類はあるだろうか。見たことの無い新しい野菜も！

ここで育てられた野菜は流通を通さず、全て市内にある直営の店で販売されるという。



ピーマン

モモ

ナス

北多摩病院の向かい側の販売所三ツ木ファームに並んでいる野菜は全部三ツ木さんの農地から採れた物。昼前に伺ったのだが、売り切れになっている品が多く人気のお店だ。地産地消の良さは新鮮さだけでなく、運送にかかるCO₂ 排出の面からもエコにつながり、作り手と消費者の交流ができるどころ。美味しい食べ方も教えてくれる。

調布の自然 花編 ドクダミ

春の花が一段落すると雨に濡れた緑が一段と鮮やかになる季節です。こんな湿気が多い時期に咲く真っ白な花にドクダミがあります。ちょっとした空き地や日陰になった庭の隅などに当たり前のように見られる花です。この花特有の香りをきらう方も多いようですが、私にはなかなか良い香りのように思えます。香りの元になっているデカノイル・アセトアルデヒドという成分にはかなりの抗菌作用があるそうですが、ドクダミにはそれ以外にも様々な効能があるのは皆さんもご存知でしょう。別名「十薬」と言われるゆえんです。

先ほど「真っ白な花」と言いましたが正確には白い部分

は花びらではありません。総苞片と呼ばれる器官ですが、よく見ると4枚が同じ大きさではなく、何故か向かい合う2枚が同じ大きさで、あとの2枚には大小があります。そして中心の棒状のところから段々に花びらの無い小さな花をたくさん咲かせます。中心の塔が低いほど新しい花ということですね。

葉っぱもハート型でとても可愛いのですが、私はドクダミをたくさん摘んだら葉っぱを落とした花束にすることがあります。こうするとジュンブライドにぴったりの真っ白な可愛い花束ができますよ。(モニターNaoK)



多摩川今昔⑦

帰化植物

近年、帰化生物による生態系の乱れが問題になっているが、そもそも帰化生物という言葉が使われる国は日本を除いてそれほど多くはない。

欧米では、帰化植物を INVADER PLANTS(侵入植物)と呼んでいるが、国境線が陸地にある国々では、どれが侵入者であるかの区別は難しく、我が国ほど厳密な区別はされていない。

四面を海で囲まれている我が国は、氷河期に陸地に渡来した植物が、氷河期が終わって陸地が切り離された後、独自の進化を遂げたものも多く、鎖国されていたこともあり、明治時代までは外国からの植物が帰化することがほとんどなかった。

帰化植物の大半は、人為的要素が起因した侵入植物で、その時代の海外と

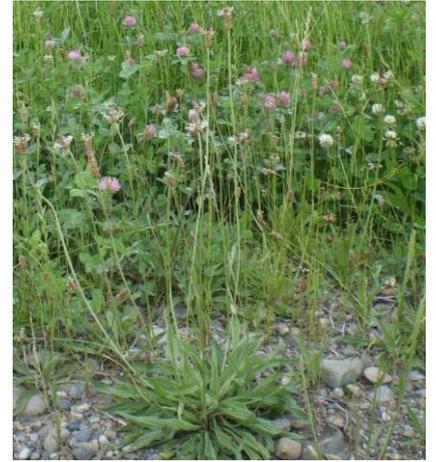
地元生まれの戸部英貞先生に、ちょっと昔の調布のようすを連載していただいています。

の交流が大きく影響しているが、侵入した時代が古く、明瞭な帰化記録が残っていないものもある。

田畑に特有な見られる植物の多くは、イネ、ムギなどが日本に伝播したとき、種子に混入して渡来したと思われる。イヌタデ、イヌビユ、クサネム、エノキグサ、ナズナなどがそれで、史前帰化と呼んでいる。

現在記録されている帰化植物は800種以上とされ、その半分以上が第2次大戦後に記録されたもので大都市周辺の雑草の80%以上が帰化植物であるが、多摩川河川敷の植物も例外ではなく、貧栄養の砂礫の河川敷であった時代には河原植物と呼ばれるカワラサイコ、カワラヨモギ、など名前に河原の付いた植物がたくさん見られたが、土が搬入され、河川が汚れ、富栄

養化するに連れ、今までは育てなかった植物が侵入し、生態系が変化、欧米を原産とするクワモドキ、アレチウリ、セイバンモロコシなど大形の帰化植物たちが取って代わっている。



6/3の多摩川土手下
手前のヘラオオバコ他にはムラサキツメクサやハルジオンも花盛り

活動記録コーナー

◆若葉の森の会

4/12(日)参加者4名

・草刈り、ゴミの掘り出しを行いました。林床に陽が入った所には、草花の新芽が出てきていました。

4/16(木)参加者4名

・草刈り、シュロ・アオキの伐採。伐採した木、枝の片付け。

5/10(日)参加者9名(新人1名)

・シュロ根の掘り出し、崖および階段の土止め作業(木・枝の積み上げ)
・落葉だめの位置を決定

5/21(木)参加者3名

・シュロ・アズマネ笹刈り、草刈り

第三緑地の活動も2年目に入りましたが、まだ整備活動を行っている状態です。シュロ根の掘り出しも‘コツ’を覚え、手早く出来るようになりました。‘コツ’は伝えていきたいですね。

保全活動の目的や意義を会員で話

し合う機会を増やし、各人が考えを深める事も大切であると、改めて思いました。

休憩の時に崖上に腰を下ろし緑地を抜ける心地よい風を感じる時、古代の人の営みに思いを巡らせました。(住田)



◆カニ山の会

5/9(土) 晴れ 参加者4名

林内を回り点検。通路沿いの枝葉がのびて、見通しが悪くなっている

のを確認し、通路沿枝葉刈払いを行った。その他、雑然と積んである切り落とし太枝の積み直し、林縁柵補修や森入口付近の落枝製の人止柵の結束し直し補修、堆肥置場囲いの作成も行った。

作業後、「もう少し朝早く、あるいは弁当持ちで午後まで作業というのもあっていい。今の対象範囲ならこれで足りるだろうが、年内に1回くらい午後までの作業があってもいい。その場合は将来を見越して、対象をカニ山の他の場所に拡げるのもいいかもしれない。」という話も出た。(活動報告より)

◆環境モニター

5/23(土) 晴れ 参加者10人

今年度の第1回目として、調布の自然環境としての里山のなりたち、特徴、国分寺崖線等について、戸部

◆野川で遊ぶまちづくりの会 *****

田んぼの植物 (田んぼの学校から)

6月初めの田植えに向けて、「田んぼの学校」の田んぼも準備が着々と進んでいます。5月末には「荒起こし」が行われました。雑草天国だった田んぼは耕されて、生えていた植物たちは土の中にすき込まれてしまいました。

田んぼの中には今、苗床ですくすく育つイネ以外は、耕されなかったわずかな部分に生えているスズメノテポウくらいしか見当たりません。しかし、耕されない田んぼの畦は、多年草の生育地です。私たちの田んぼでは、ヘビイチゴ、カントウヨメナ、カラスビシャクなどが見られます。

今はカラスビシャクが花盛り。緑色の地味な花ですが、形が変わっています。鎌首もたげたコブラのような形の花で、そこから長い舌まで出ています。畑の雑草として普通に見られるものだそうですが、調布の畑ではあまり見かけたことがありません。カラスビシャクとはカラスの柄杓(ひしゃく)の意味です。

カラスも今、子育ての時期でしょうか。この小さな柄杓で水をくんでヒナたちに運んでいたら面白いですね。(たんぼの学校 Y.I.)



かくなってきたので春の花を期待しましたが、目立ったのはシャガの群落くらいでした。しかし、キンラン、ウラシマソウ、キランソウ、タチツボスミレ、ムラサキケマン、オニタビラコなどを観察。工事でNTT社宅跡から移植したニリンソウは、開花はしていなかったものの活着しているようで来年が楽しみです。

公園化されたことで人の出入りの機会が多くなりごみも増えています。また、ブルーシートも奥にありホームレスの人が使っていたのでしょうか。市の張り紙があったので出て行かれたようですが、今後の管理についても市と連携していく必要があります。

5月17日、朝にはあがったもの前日からの雨のせいか参加は4人でしたが、シュロを1本伐採、さらに民家横の三角地(横が現在空き地のため目立つ)の下草刈りをしました。蒸し暑くもなく、作業にはちょうど良い天気でつい頑張りすぎ、なかなか終われませんでした。久しぶりに爽やかで心地よかったとの感想です。花は、ガマズミ、オニタビラコ、アオオニタビラコ、ハルジオン、ツルニチニチソウ、カタバミ、ユキノシタ、林縁にドクダミの白い花がきれいに咲き、大きなヘビイチゴの赤い実が目をつきました。(安部記)

●..... 活動記録コーナー

先生の体験を交えながら解説が行われた。

「・里山の樹木は、その種類が選ばれて植えられたというよりも、管理のしやすさなどから自然に現在の樹種が多くなっていったと考えられる。

・薪炭材を採るために人の手が入られていた雑木林(里山)は、現在では落ち葉の回収などが行われなくなったため、土壌が肥沃になり、植生に変化が起きている。

雑木林の管理は、木を切る、切らないという形で対立が起こりやすい。

多摩川は時代が進むと共に、その流れる範囲が狭められ、堤防が築かれてきており、かつての河川敷(現在の市民プールの周辺)では花が一面に咲いているのが普通だった。」

観察

佐須ふれあいの家から佐須用水沿いにカニ山までの観察を行った。

佐須用水及び沿川の水田や畑等では、セリ、イヌノフグリ、ミソハギ(栽培)ミクリ、キツネアザミなどの植物と共に、アメリカザリガニなども観察された。

かに山では、市民により管理されているエリアと野草園での観察が中心に行われた。(活動報告より)



◆入間・樹林の会

4月19日、参加者7人で方形桝調査とアジサイの剪定を行いました。暖



▲散乱するブルーシート

シャガ

☆ 環境市民 エコ活動カレンダー & おしらせ ☆



～ 今年もやります！東京の生きもの調査 ～

第2弾

カブトムシ・クワガタ・オニヤンマを見つけよう

日時：7月18日(土)9:30～13:00 ※荒天7/19(日)に順延

集合場所：調布市自然広場（野草園駐輪場）

調査場所 深大寺自然広場・かに山周辺、後半：谷戸・田んぼ

講師 石川和宏氏（テレビチャンピオン決勝出場/環境調査員/環境モニター）

講師 宮治隆博氏（自然保護協会自然観察指導員）

定員 20組の親子（先着順）

* 服装 長袖長ズボン

* 保険料 1人100円

* 参加費は無料

主催：東京の生き物環境調査・調布実行委員会

問合せ：TEL：042-487-0330（荒木）

FAX：042-486-0625（江刺）



がんばれ！ 緑のカーテン

「ちょうふ環境市民会議」では夏の暑さをのりきるエコ対策として今年、緑のカーテンの普及に力を入れています。

インゲンや朝顔と比べゴーヤの発芽率が悪かったのですが、1面にある三ツ木ファームの社長さんに聞いたところ、「ゴーヤは種の皮が硬いので撒く前に2～3日は水に漬けておいた方がいい」とのこと。

来年は発芽率100%目指します！



Schedule Schedule 全ての会でメンバー随時募集中！Schedule Schedule

◆カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は集合場所（野草園横）へ直接おいで下さい。

年会費500円+保険料

●6/13(土)10:00～12:00

/下草刈りなど。

●7/11(土)10:00～12:00

/樹林の保全活動

問合せ ちょうふ環境市民会議・事務局
(FAX:042-486-0625)へ

◆環境モニター

6/27(土)

問合せ：緑と公園課042-481-7083

◆調布ごみ市民会議

●6/20(土)10:30～12:30

上手な堆肥の作り方講習会

場所 たづくり301・302会議室

問合せ 042-488-9361 (今村)

◆入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に活動しています。参加希望の方は直接入間地域福祉センターへおいで下さい。

●6/21(日)9:30～12:00

/樹林の保全活動

●7/19(日)9:30～12:00

/樹林の保全活動

問合せ

環境政策課 042-481-7086

または緑と公園課 481-7083

◆若葉の森の会

原則毎月第2日曜に若葉町第3緑地で保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所入間地域福祉センターへおいで下さい。

●6/14(日)10:00～12:00

●7/12(日)10:00～12:00

/各回とも樹林の保全活動

詳細は環境政策課042-481-7086へ

◆野川とハケの森の会

●6/14(日)11:00～

映画会(演目未定)

場所 世田谷トラストシアタールーム

●7/11(土)

野川清掃

10:00カワセミ館集合

問合せ：070-5566-3437(大山)

<http://www.ne.jp/asahi/nogawa/hake/>

入会方法：HPのメールから、または

イベント等随時(入会金2000円)

今回の散策参加：希望者はカワセミ館に直接集合(その場で参加登録)

【編集後記】★右上の写真は我が家のゴーヤ。楽しみながらエコができる、うまく育つといいなあ。調布産野菜も美味しく食べてエコができるといいことづくめ(鍛冶)。★5/9のアースデと、6/9の市環境フェア用の苗作りで毎日ベランダで水遣りのガーデナー生活を満喫?! もう直ぐ梅雨ですね(江刺)。

市民発 ちょうふの自然だより

この「自然だより」は旧ちょうふ環境市民懇談会が発展的に解散し、新たに「環境市民会議」設立に向けて活動を継続したのを受けて、ちょうふ環境市民会議準備会が発行を継続。これまでの毎月発行から隔月発行

に変更しました。現在、2009年3月15日設立された「ちょうふ環境市民会議・広報部会」が編集発行しています。調布の自然情報がつまった「自然だより」です。あなたの“ちょこっとエコ応援”をまっています。

発行：ちょうふ環境市民会議 ☆☆☆原稿募集☆☆☆